
PLANT-プラント-

沢田綱吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

P L A N T - プラント -

【Nコード】

N 4 8 2 8 M

【作者名】

沢田綱吉

【あらすじ】

植物と話せる少年は街のひとから気味悪がられていた。
その街を植物たちが襲い、それをピートのせいになされてしまう。

第一章 序章（前書き）

植物は身近にあるものだけどその植物などが伐採されて植物が少なくなってしまう。そういうことを想像しながらこのPLAN T・プラント・を書かせてもらいました。

皆さんもそういうことをそうぞうしながら読んでくれると嬉しいです。

第一章 序章

あるとき植物と話せる少年がいました。その少年のなまえはピートというなまえでした。

街のひとはピートが植物と話せることはしらないので気味悪がっていました。

なのでピートの友達は植物だけでした。あるときその街を植物たちが襲いました。

その事件で街のひとの3分の2が亡くなり残りの人たちは、近くの城へ逃げてその街は、

植物の世界になりました。街のひとたちはその事件をピートがやったと思い込みせっかく逃げてきたピートを追いつき、「この化け物め、帰れ、帰れ」とその城をおいだされました。

ピートはなぜこのようなことになったのかわからずこの街で一番大きい木があるところへ行き、わけをきこうとしました。「なぜこのようなことをしたんだ！」しかしその木はいつもと様子が違います。

その木はピートを枝で殴ろうとしました。

「きやああああー」

ピートが叫んだ瞬間その木は変な行動をとり始めました。

（まさかまだ少しかんじょうがのこっているのでは）

ピートはそう思い木に説得しようと思いました。しかしその頑張りは無駄に終わり殴られ気絶してしまいました。

小屋（前書き）

えーとすごく忙しくこれ書くのすげー遅くなっちゃいました。まああたりまえですが読んでいただけると嬉しいです^^

小屋

目を覚ますと、見知らぬ小屋の中にいました。

「ここは？」

そうつぶやくと、おくから女性の声がしました。

「目が覚めたみたいね。ずっと眠っていたから心配していたんですよ。」

「あなたは誰ですか？そしてここは？」

「私の名前は『ソラ』よ。あなたの名前は？」

「・・・ピート」

「ピート君ねおながが減ったでしょ。ここの話は食べながらもしましょう。」

とてもおいしそうな料理が並んでいた。しかしピートは手を付けなかった。

たしかにおなががへっていたが・・・。

「食べないの？」

「いや、それよりここは植物に襲われないかが心配で・・・。」

「わかったわ。先に話します。じつは私には『能力』があるんです。」

「能力？」

「そう、その能力は植物を眠らせることが出来る。この小屋も木材で出来ているのに暴れないのはそのせいなの。」

「実はそういう能力を持っているのは私だけじゃなく他の人もこういう能力を持っていて秘密で集まっている場所があるの」

「僕も・・・植物と話せる能力を持っています。だからそこへ僕も連れて行ってください！」

そういうとソラは驚いた顔をしました。

「まさかあなたもだったなんてメンバーは多いだけ良いし。よしつれてってあげる。今日の夜出発ね。」

小屋（後書き）

前書きでも言いましたがかくのおそくなつてすいません><
またしばらくかけないかもしれませんか『プラント』宜しく
お願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4828m/>

PLANT-プラント-

2011年1月16日06時17分発行